

文化資源を活用した文化観光の推進による地方創生に関する懇談会
事務局説明資料

令和7年2月28日（水）

✓ ファンベースの考え方

ファンである既存顧客を優先・中心とした事業運営により、既存顧客から波及的に顧客を拡大していく考え方

（ファンベースの考え方の文化観光施策への適用について）

- 地域の実組段階や文化資源のタイプに応じて、ファンベースの考え方が有効になるフェーズもありうる一方、既存のファンを見出し、そこからの波及効果を生み出すことだけにフォーカスしてしまうと、観光プロモーション事業と変わらない。
- ファンベースも参考にしつつ、地域ベースでファンをつくるステップが最初に必要なではないか。

（今後の検討の方向性）

- オープンファクトリーのような取組では、普段はお互い顔が見えない観光客と生産者が接することで、観光客は製品に対する理解や愛着が深まり、生産者は仕事への意欲が高まる。それがひいては製品の購入や担い手の増加に繋がっていく場合もある。こうした高付加価値化の事例からより解像度を上げて議論していけるとよい。
- 昨今、地域で中核になっている人材は、Uターン、Jターン等、外の世界を知ったうえで、地域の良さを再発見した人たち。地域に戻って活躍できる人材を地域側がを見つけ出すきっかけづくりや、そうした人材による取組を応援したりできるような仕組みがあるとよいのではないか。

田澤麻里香氏 (株) KURABITO STAY 代表取締役

長野県小諸市出身。大手旅行会社、大手食品会社（ワイン営業部）勤務後、故郷である小諸市へ地域おこし協力隊としてUターン。（一社）こもろ観光局の立ち上げに関わる。その後、「観光地域づくり」による地域振興の一環として2019年起業、株式会社KURABITO STAY 代表取締役社長就任。2020年世界初となる蔵人体験ができる酒蔵ホテル®KURABITO STAYをオープン。地方の日本酒ツーリズムや観光コンテンツのさらなる高付加価値化を目指し、全国各地で講演やセミナー等も行なっている。内閣府クールジャパン・プロデューサー。



山川智嗣氏 (株) コラリアルチザンジャパン 代表取締役

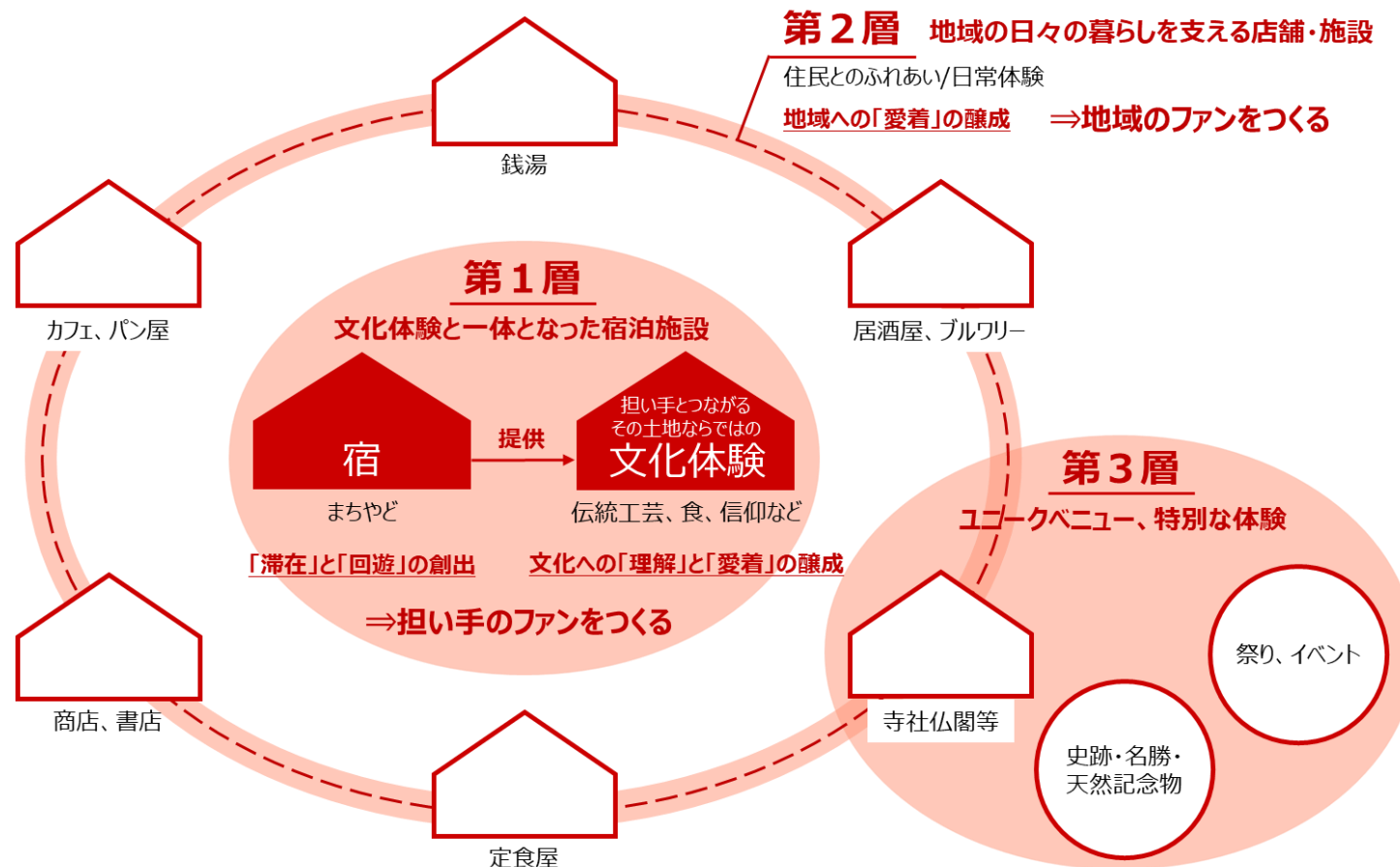
富山県富山市出身。カナダ留学や上海の設計事務所での勤務後、日本一の木彫刻のまち富山県南砺市井波にて「お抱え職人文化を再興する」をコンセプトに、ものづくり職人と新たな価値を創造するクリエイティブ集団・コラリアルチザンジャパンを運営。日本初の職人に弟子入りできる宿「Bed and Craft」をプロデュースするなどクリエイティブディレクターとしても活躍している。24年Forbes Japan により世界を動かす45歳以下のカルチャープレナー（文化起業家）30組に選出。（一社）ジソウラボ 理事、（一社）日本まちやど協会代表理事。



地方都市における文化を起点とした観光まちづくりモデル（一例）

主な想定地域

人口10万人未満の中小規模の市町村で、伝統工芸や食文化の産地を有する地域



文化資源や地域コミュニティを活かした経験価値を、
地域の手で創出し、地域に付加価値が還流する経済システム

⇒地域の文化・伝統産業の継承・発展、シビックプライドの醸成、地域経済の活性化

ハード事業

(高付加価値化された文化財への改修・整備促進事業)

【課題】

- 主な支援対象となっている重要文化財建造物は現状変更等の規制が強く、地元住民や移住者が日々の暮らしを支えるカフェ等の比較的小さな事業に活用するには、ハードルが高い
- 支援対象事業が、面的なまちづくりの一環としてではなく、点の事業で終わってしまう可能性がある



【改善案】

- 重要伝統的建造物群保存地区や重要文化的景観内の建造物、登録有形文化財等、重要文化財よりも規制が緩やかな文化財の活用に対する支援の拡充
- 対象事業が面的なまちづくりに貢献することを要件化 (e.g. まちづくり計画に位置付けられていること等)

ソフト事業

(全国各地の魅力的な文化財活用推進事業)

【課題】

- 過去の好事例が、他の地域や事業者が参考にできるプロセスレベルまでナレッジ化されていない
- 体制面、コスト面で継続性の低い事業が散見
- コーチの専門分野と補助事業者がコーチに求める知見のミスマッチが散見



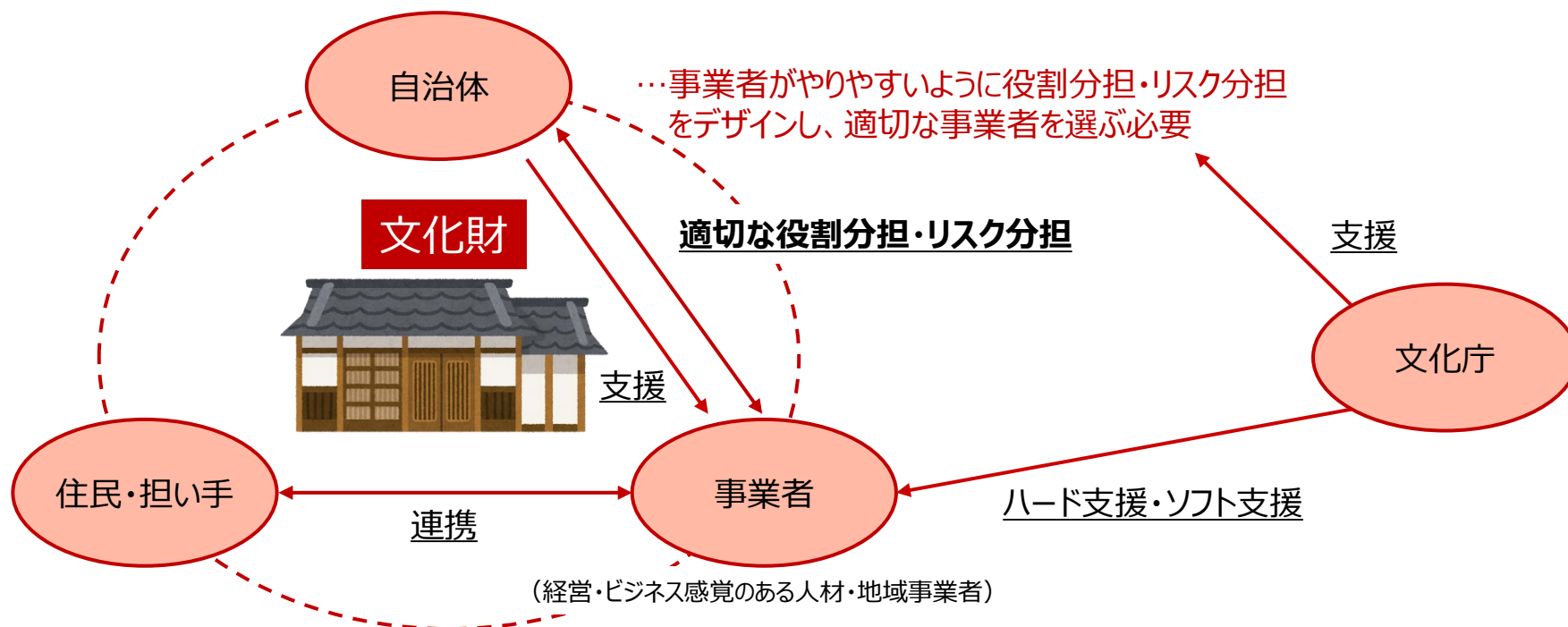
【改善案】

- 過去の好事例のプロセスのナレッジ化
- 事業性（継続性）をより厳格に審査する仕組み・体制づくり
- 補助事業者のニーズに基づくコーチの人選、コーチ間の連携

モデルを踏まえた新規施策の方向性①

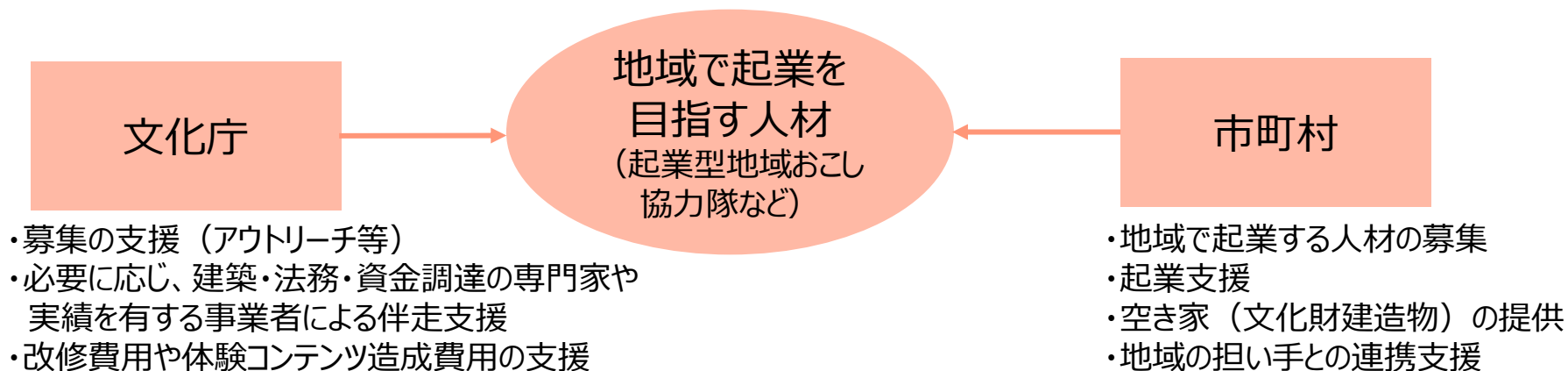
文化資源を高付加価値化し、活用から保存への再投資を図るためには、文化資源が有する価値を経済価値に転換し、**持続的に利益を生み出す経営・ビジネス感覚が不可欠**であり、**そうした感覚を有する人材や地域事業者が、地域の意向も汲みながら文化財を活用した事業を行う環境をいかに創出できるかが重要**であると考えられる。そのために、自治体や文化庁が果たすべき役割は何か。

【イメージ】（自治体所有の文化財建造物の場合）



モデルを踏まえた新規施策の方向性②

文化体験と一体となった宿泊施設（文化財建造物を活用したもの）の事業立ち上げ段階からの支援



○新規施策の方向性について

○既存施策の改善点について

(参考) 高付加価値化された文化財への改修・整備促進事業

令和7年度予算額(案)

1,146百万円(国際観光旅客税財源)



活用のために必要な文化財建造物の改修や、美観向上整備、活用環境の強化を支援します！

背景・課題

- モダン建築をはじめとする文化財を活用した宿泊施設や、美術館・博物館等の文化施設は、外国人旅行者を満足させる上質な施設としての整備が期待されている。
- また、伝統的建造物群保存地区や史跡など、外国人旅行者が滞在する文化財において、宿泊機能の整備、多言語対応、洋式トイレの整備等が進んでおらず、上質な体験やエリアの魅力を十分に伝えきれていない。

事業内容

- 国指定等文化財の魅力向上につながる高付加価値化改修、美観向上整備、活用環境強化を支援することで、建造物自体の魅力向上、美術工芸品の公開活用、観光客の滞在快適性向上を図る。



1 文化財の高付加価値化改修

高付加価値化された宿泊・飲食・集客施設として活用するため、計画の策定から改修工事までを支援

補助率・上限額

- ・補助対象経費の1/2、条件に応じて最大2/3まで加算
- ・上限は2億円(付帯設備の新築はそれぞれ上限2千万円)

主な要件

- ・国指定等文化財建造物であること
- ・観光関係者と共同で計画を策定すること

2 文化財の美観向上整備、活用環境強化

外観等の美装化、内装等の活用整備、鑑賞環境の整備を支援(活用に必要な付属施設の整備は、新築も可能。)

補助率・上限額

- ・補助対象経費の1/2、条件に応じて最大2/3まで加算
- ・上限は5千万円(付帯設備の新築はそれぞれ上限2千万円)

主な要件

- ・国指定等文化財であること
- ・外国人観光客の入れ込み数の目標値等を設定していること

取組イメージ

明治生命館 (重要文化財・東京都千代田区)



元々執務室だった空間に美術館を移転。古典主義様式の傑作を活用した東洋古美術の魅力的な鑑賞空間に。



【写真提供】
株式会社TOREAL
藤井浩司

高岡市・金屋町重伝建地区



築100年の古民家をリノベーションし、特産の鋳物作品の魅力を体感できる一棟貸しの高付加価値ホテルを整備。



(参考) 全国各地の魅力的な文化財活用推進事業

令和7年度予算額(案)

774百万円(国際観光旅客税財源)



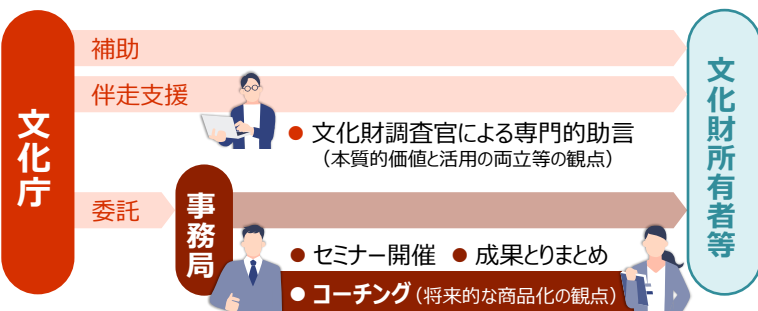
機能強化した京都の文化庁が伴走し、文化財を高付加価値化して活用するためのコンテンツ造成を支援します！

背景・課題

- インバウンドの地方誘客を進める上では、我が国の宝である文化財は観光立国推進の切り札であるが、
 - ・これまで活用に取り組んでいない文化財の掘り起こしや、
 - ・これまでにない内容・方法で堪能できるコンテンツ など、
 高付加価値旅行者の知的好奇心を満たすような上質で思い切った活用が進んでいない。
- 文化庁京都移転を契機として、文化庁ならではの地方創生を実現するため、官民連携により文化財の高付加価値化を推進する必要。

事業内容

- 国宝・特別史跡などの国指定等文化財について、上質で思い切った活用(特別な歴史体験、夜間活用、ユニークベニュー等)を図り、インバウンドの旺盛な知的好奇心を満たす高付加価値なコンテンツ造成を実施し、活用から保存への再投資を図る。
- その際、活用が表面的なものに終わらないように、文化庁(本質的価値との両立等の観点)や専門家(具体的な活用プランや資金調達等の観点)が伴走支援を行いつつ、所有者等の意識改革のためのセミナー等を実施するなど、パッケージで取組を推進。



事業者	文化財所有者、管理団体、地方公共団体、民間事業者またこれらによって構成される協議会 等	主な要件等	・国指定等文化財を核としたコンテンツであること ・活用から保存への再投資を図る仕組みを可視化すること
補助率	補助対象経費の1/2、条件に応じて最大2/3まで加算	事業期間	単年度

取組イメージ

特別な歴史体験

京都府 | 二条城

二之丸御殿においてAR・VRを活用し、大政奉還を多言語で再現することで、史実に基づく歴史体験(Living History)を提供。



夜間活用

愛媛県 | 大洲城

復元された木造天守に宿泊し、滞在を通じて地域の伝統芸能・工芸・食を堪能。雇用創出・文化財への収益還元を実現。



ユニークベニュー

佐賀県 | 名護屋城跡

城跡で地域の食材や有田焼を活用した野外レストランを実施、厳しい規制のかかる特別史跡の積極的な活用に挑戦。



今後のスケジュール

本懇談会のスケジュールは以下のとおり。

令和6年7月24日（水）	第1回懇談会 懇談会の設置趣旨・背景について
9月11日（水）	第2回懇談会（ヒアリング・意見交換） ＜ゲスト委員＞ （株）ファンベースカンパニー 佐藤尚之 会長
2月28日（金）	第3回懇談会（ヒアリング・意見交換）（本日） ＜ゲスト委員＞ （株）KURABITO STAY 田澤麻里香 代表取締役 （株）コラリアルチザンジャパン 山川智嗣 代表取締役
4月目途	第4回懇談会（ヒアリング・意見交換） ＜ゲスト委員＞ 文化財を活用したまちづくりに取り組んでいる地方公共団体 や民間事業者を想定
5～6月目途	懇談会とりまとめ